

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出

Trans-Regional Spread of Religious Cultures and their Creating “Regions” in Asia

2. 研究代表者氏名

稲葉 穰・中西 竜也

INABA, Minoru / NAKANISHI, Tatsuya

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(2年目)

4. 研究目的

古来、西アジア、南アジア、内陸アジア、東アジアでは、イスラームや仏教などの諸宗教と関わる諸思想・諸文化が多方向的に越境波及し、各地に様々な作用を及ぼしてきた。本研究班では、当該諸思想・諸文化が、ときに超地域的な思潮・流行文化、あるいは時代精神のようなものさえも形成しながら、他方で地域化したり、地域特性やローカル・アイデンティティの創造・想像に寄与したりもしてきた、そのダイナミックな様相を議論する。たとえば、南アジアに起源して西アジアはもとより、中央アジア、さらには中国にまで伸展したスーフィズムの一派、ナクシュバンディーヤ・ムジャッディディーヤの各地における展開実相やインパクトを考察する。また、その考察の基礎を共有するために、同派の根本経典、名祖アフマド・スィルヒンディー（1624年没）のペルシア語書簡集など、ムジャッディディーヤ関係の諸文献を会読・吟味する。こうした探求を通じて、特定の宗教や地域に関する本質主義的な見方、あるいはそれと表裏する軽率な「異文化」の土着化・排除の要求を相対化する視野を開拓し、これを糸口としてグローバル化時代の「共生」の問題にも思いを馳せたい。

Various ideas and cultures related to religions such as Islam and Buddhism have multi-directionally and transregionally spread in Asia (West, South, Central, and East Asia). We examine how these ideas and cultures formed transregional intellectual and cultural trends, or something like the spirit of the age, on the one hand, and adapted to a certain area, or contributed to the creation and imagination of “regions,” on the other hand. For example, we focus on the Naqshbandiyya-Mujaddidiyya, a Sufi order, which expanded from South Asia to Central and East Asia as well as West Asia, and investigate what developments and impacts this Sufi order had in each area. In order to share a basis for this study, we read and discuss literatures of Mujaddidiyya including Persian epistles written by Ahmad Sirhindi (d.1624),

the eponym of the Sufi order in question. Through such an exploration, we aim at cultivating a perspective to relativize the essentialist views regarding a certain religion and region, accompanied by imprudent demands for the indigenization or exclusion of “foreign” cultures. Furthermore, we want to ponder on the problem of “cultural coexistence” in our globalization era.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、全 14 回の研究会を開催した。うち 7 回は、アフマド・スィルヒンディー『書簡集』（ペルシア語）の会読を行い、訳注作成作業を進めた。スーフィズムの思想・体験を記した当該テキストは、相変わらず難解だが、前年度に比べれば理解が進み、読み進む速度も僅かながら上がった。残りの 7 回は、班員の研究報告会（5 回、うち 1 回は英語による）や海外からのゲスト・スピーカーの講演会（都合 2 回、1 回は日本語、別の 1 回は英語による）を開催した。個々の研究報告の具体的内容は多岐に渡ったが、いずれも宗教文化現象の越境や地域創造を考える上で示唆に富むものであった。今年度は、前年度の反省をふまえ、二人の大学院生に研究発表を依頼した。いずれも興味深い内容で、とくに活発な議論が交わされたのが印象的であった。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024.4.26 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 ラシード・アッディーン
の文化集成事業―『珍貴の書』と「神学著作」を題材に― 発表者 對馬稔 京都大
学文学研究科
- 2024.5.10 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2024.5.24 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2024.6.14 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
ィー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2024.6.28 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 口外無用でも港外へ：外
国行きの中国王朝の実録 発表者 吳國聖 国立清華大学歴史研究所
- 2024.7.12 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 ニヤ遺跡出土カローシュ
ティー文書の執筆年代の再検討 発表者 内記理 愛知県立大学
- 2024.7.26 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 再び Khwāja ‘Ubayd Allāh
Aḥrār(1404-1490) について ‘Ārif Naushahī 博士の業績と Jo-Ann Gross, Asom
Urunbaev, The Letters of Khwāja ‘Ubayd Allāh Aḥrār and his Associates,
Leiden/Bostn/Köln: Brill, 2002 発表者 川本正知 奈良大学名誉教授
- 2024.10.11 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ

- イー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2024.10.25 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
イー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2024.11.8 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 A brief introduction to the
discovery of Almosi Inscriptions in 2022 発表者 慶昭蓉 京都大学白眉センター
コメンテーター Étienne de La Vaissière EHESS, France
- 2024.12.13 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 交錯するメシア像：新出
フルーフィー文献『マフディーの書』とその論敵 発表者 角田哲朗 京都大学文
学研究科
- 2025.1.24 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
イー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所
- 2025.2.14 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 An Islamic Restoration in
19th-century Yunnan: Ma Lianyuan's printing and education program 発表者
Rian Thum The University of Manchester
- 2025.3.28 アジアにおける宗教諸文化の越境波及と「地域」創造 アフマド・スィルヒンデ
イー『書簡集』会読 発表者 中西竜也 京都大学人文科学研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

稲葉穰、中西竜也、FORTE, Erica

学内

帯谷知可(東南アジア地域研究研究所)、今松泰(アジア・アフリカ地域研究研究科)、磯貝健一(文学研究科)、對馬稔(文学研究科)、東長靖(アジア・アフリカ地域研究研究科)、岩本佳子(文学研究科)、笹原健(文学研究科)、山口元樹(アジア・アフリカ地域研究研究科)、荻原裕敏(京都大学)、原陸郎(アジア・アフリカ地域研究科)、角田哲郎(文学研究科)、慶昭蓉(白眉センター)

学外

BROWNING, Jason(東京大学)、和田郁子(岡山大学)、真下裕之(神戸大学)、伊藤隆郎(神戸大学)、小倉智史(東京外国語大学)、矢島洋一(奈良女子大学)、大津谷馨(東京外国語大学)、海野典子(大阪大学)、嘉藤慎作(滋賀大学)、内記理(愛知県立大学)、宮本亮一(奈良大学)、岩井俊平(龍谷大学)、杉山雅樹(京都外国語大学)、森山央朗(同志社大学)、二宮文子(青山学院大学)、杉山隆一(京都橘大学)、小澤一郎(立命館大学)、檜山智美(国際仏教学大学院大学)、岩尾一史(龍谷大学)、川本正知

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	4 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	3	11 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	43 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (0)
国立大学 (内女性)	7	9 (3)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	21 (6)	2 (0)	3 (3)	2 (2)	0 (0)
公立大学 (内女性)	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	9	9 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	21	34 (9)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (0)	125 (29)	5 (3)	3 (3)	2 (2)	18 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	Annuaire du Collège de France 2020-2021, Résumé des cours et travaux, 121e année	1	2024	Séminaire – Nouvelles approche des sources chinoises (principalement le Tongdian [通典]) sur l'Asie centrale à l'ouest des Pamirs	Frantz <u>GRENET</u> and CHING Chao-jung
2	International Journal of Asian Studies (First View)	1	2024.4	A flexible choice of comrades: the dynamic identity of the Muslim Huis of the seventeenth and eighteenth centuries	Nakanishi Tatsuya
3	国際仏教学大学院大学研究紀要 28号	1	2024.6	クチャ・スバシ東岸寺院址の「地獄繪」壁画の分析―第一次大谷探検隊の記録を手掛かりに―	檜山智美・ <u>橘堂晃一</u>

4	梵學 (Studia Indica) 第 1 輯	1	2024.6	「漢語文書中の于闐語人名―傑謝居民的な新集合」(Khotanese names in Chinese documents: Examining a new set of inhabitants in Gaysāta)	榮新江・慶昭蓉
5	Al-Madaniyya: Keio Bulletin of Middle Eastern and Asian Urban History, No.3	1	2024.6	Book Review: 'Alī Akhvān Mahdavi and Rezā Naqdī (eds.), Āyīnhā-ye Ḥaram-e Moṭahhar-e Razavi (The Rituals of the Sacred Sanctuary in Emām Rezā Mausoleum), Mashhad: Bonyād-e Paghūsheshhā-ye Eslāmī, 1396kh.	Sugiyama Ryuichi
6	CHRONOS (京都橘大学女性歴史文化研究所発行)、第 51 号	1	2024.10	20 世紀イランにおける女性の権利拡大運動をめぐって ―セディーゲ・ドウラトアーバーディーの生涯から	杉山隆一
7	神奈川大学評論 第 107 号	1	2024.11	ウズベキスタンのヴェール論争のその後	帯谷知可
8	史林 108 卷 1 号	1	2025.1	「民族覚醒」の起源をめぐる謬説とその継承―独立後インドネシアにおけるイスラーム的ナショナリスト史観	山口元樹
9	アジア・アフリカ地域研究 24-2	1	2025.3	オルジェイトゥ史-イランのモンゴル政権イル・ハン国の宮廷年代記	井谷鋼造

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	Gerardo Barbera et al., eds. Siddham: Studies in Iranian philology in honour of Mauro Maggi (Beiträge zur Iranistik 52)	慶昭蓉	2024	Dr Ludwig Reichert	○
2	川本正知著 ラシード・ウッディーン・ファズル・アッラー『歴史集成 第 1 巻 クビライ・カーアーン紀 テムル・カ	川本正知	2024.4	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	

	ーアーン紀』				
3	魏正中・桧山智美編 亀茲早期寺院中的说一切有部遗迹探真	桧山智美	2024.5	上海古籍出版社	
4	奈良大学史学科編 史料から広がる世界：奈良から世界へ過去から未来へ（奈良大ブックレット 12）	宮本亮一	2024.6	ナカニシヤ出版	
5	Winter, Stefan and Hajhasan, Zainab, eds. Syrian-Kurdish intersections in the Ottoman period	岩本佳子	2024.8	University of Toronto Press	○
6	笠井亮平ほか編 インド北東部を知るための 45 章	二宮文子	2024.8	明石書店	
7	Toro Ikuya, eds. Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia (Vol.4)	山口元樹	2024.11	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)	○
8	Susmita Basu Majumdar, eds. Transcending Boundaries. Premodern Cultural Transactions across Asia. Essays in Honour of Osmund Bopearachchi.	桧山智美	2024.12	Primus Books	
9	公益財団法人東洋哲学研究所編 シルクロード研究論集第 2 巻 仏教東漸の道 西域・中国・極東篇	桧山智美	2024.12	東洋哲学研究所	

10	Eli Franco, Charles Ramble and Monika Zin, eds. Kucha and beyond, divine and human landscapes from Central Asia to the Himalaya: Proceedings of the Conference of European Society for the Study of Central Asian and Himalayan Civilisations (SECHAC) held in Leipzig, 2-4 November 2021 (Leipzig Kucha Studies 6)	慶昭蓉	2025	Dev Publishers	○
11	山内和也編 シルクロードのコイン 1 (帝京大学シルクロード叢書 1)	宮本亮一	2025.2	帝京大学出版会	
12	TONAGA Yasush et al., eds. Bridging Mystical Philosophy and Arts in Sufism: Poetry, Music and Samā' Ritual (Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 5) at Kyoto University, 2025	東長靖	2025.3	Kenan Rifai Center for Sufi Studies, Kyoto University	○
13	熊倉和歌子編 デジタル人文学が照らしたすコネクティビティ	伊藤隆郎	2025.3	東京大学出版会	
14	小野仁美ほか編 イスラーム法研究入門	磯貝健一	2025.3	成文堂	

12. 博士学位を取得した学生の数

1 (学内 1)

13. 次年度の研究実施計画

来年度も、おおむね毎月2回のペース(8月は休み)で、都合20回ほどの研究会を開催(各月にアフマド・スィルヒンディー『書簡集』の会読と、班員・ゲストの研究報告会とを一度ずつ開催)する予定である。会読は、現在『書簡集』の第九書簡まで読み進めたが、訳注の公表を視野に入れ、一定の区切りとなる第18書簡までの読破を目指す。そのため会読の回数を今年よりも増やして10回ほどにするつもりである。研究報告会は、今年度同様10回ほどを見込んでいる。今年度以上に、比較的若い班員による報告の機会を増やすとともに、

機会があれば海外からのゲストによる講演会も積極的に開催したい。また、今年度に引き続き、関連する個別事例の地道な研究をさらに積み重ねる中で、「地域」の動態的・多元的・重層的な形成・想像において広域的な宗教文化の展開が果たした役割という大きな議論的枠組みの精緻化を意識した討論を深めたい。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

アフマド・スィルヒンディー『書簡集』の訳注の公表に向けて作業を続ける。また、班員が研究報告会での報告や議論をもとにして個々に論文を公表し、宗教文化の越境的波及と「地域」創造に関する論集の将来的な出版の足がかりとする。